

トヨタ東日本学園の概要を発表

中長期の人づくりを通じ、東北におけるモノづくり基盤を強化

セントラル自動車(株) (以下、セントラル)、トヨタ自動車東北(株) (以下、トヨタ東北)、関東自動車工業(株) (以下、関東自動車)とトヨタ自動車(株) (以下、トヨタ)は、2012年7月設立予定の「トヨタ自動車東日本」の企業内訓練校「トヨタ東日本学園」の概要を発表した。

「トヨタ自動車東日本」は、「世界 NO.1 の魅力あるコンパクト車の提供」を実現するために、セントラル、トヨタ東北、関東自動車の3社が統合し設立される。トヨタはかねてより「モノづくりは人づくり」との理念に基づき人材育成を行っており、「トヨタ自動車東日本」においても中長期を見据えた人づくりを通じてモノづくり基盤を強化するため、「トヨタ東日本学園」を設立する。第一期生の募集は2012年7月より開始し、2013年4月に開校する。

具体的には、生産技術や機械設備について学ぶ製造設備科を設置し、定員は30名とする。現場経験豊富な指導員のもと、厚生労働省が定める職業能力開発促進法に基づく認定職業訓練^{*1}に沿った教育を1年間行い、モノづくり現場の中核人材を育成する。年間1760時間の授業は、約6割が技能実習、約3割が心身教育、約1割が学科教育の総合教育とするほか、東北のモノづくりのルーツを学ぶなど東北に根ざした教育を行う。その他、訓練行事やクラブ活動、地域ボランティア活動などのプログラムも予定している。

また、「トヨタ東日本学園」の設計コンセプトは、「人づくり」「環境・エネルギーマネジメント」「地域連携」の3つを柱とする「三位一体で未来の力を育てる学園」としている。

「人づくり」においては、生産技術や機械設備についての専門教育を行うために必要な実習設備を学園棟に備える。

「環境・エネルギーマネジメント」においては、冬季の空調負荷低減を図るための高断熱構造や、照明人感センサー、ビオトープによる周辺緑化など、様々な省エネルギー策を導入することで、エネルギー負荷(電力使用量)の少ない建物計画とする。

また、学園を「工業団地を中心とした新しいスマートコミュニティ」として取り組んでいるF-グリッド構想^{*2}と連携させ、発電・蓄電機能を活用することで、効率的なエネルギーマネジメントを行う。具体的には、学園に太陽光発電設備を設置し、あわせて自動車用バッテリーも活用して蓄電池を設置して、セントラル宮城工場のコジェネレーション発電システムとつなぐ。それにより、昼間は、太陽光発電による蓄電分を使用するほか、余剰電力が発生する工場非稼働の時間帯にコジェネレーション発電システムから蓄電した電力も使用する。

さらに、学園施設内の電力使用量やCO2排出量を可視化し、生徒や教員の参加型による省エネ活動を推進する。

「地域連携」においては、学園の施設を一般開放し、小学生・中学生向けの工作教室の開催や、

社外者向けの短期技能講座を開催して、地域におけるモノづくり人材の育成支援にも取り組んでいく。

そのほか、災害時に、地域における情報発信拠点としても学園施設を利用できるよう、コジェネレーション発電や太陽光発電に加え、非常時に電源として活用できる給電機能付プラグインハイブリッド車などを配備するほか、衛星電話や携帯電話の充電ステーション、災害時活用可能な情報モニターなどを設置する。

- * 1 職業能力開発促進法により、厚生労働省令の基準に適合する職業訓練は、都道府県知事より認定職業訓練として認定される(認定職業訓練を受け技能照査に合格した者は技能士補と称し、技能検定の一部が免除)
- * 2 宮城県大衡村の第二仙台北部工業団地で実施検討中の「隣接工場・地域間」における総合的エネルギーマネジメント構想

< 「トヨタ東日本学園」 概要 >

学校名	トヨタ東日本学園
所在地	宮城県黒川郡大衡村中央平
主対象	東北地方の工業高校新卒者
定員	30名
訓練科	製造設備科
期間	1年間
開校	2013年4月(予定)
施設	学園棟、PR棟
敷地面積	31,500㎡

< 「トヨタ東日本学園」 イメージ >



以上